

たまたれ

通巻 第27号



拝殿 格天井の「夫婦午」

頌 春

宮司 竹間 宗磨

平成二十六甲午歳の年頭を寿ぎ、謹んで
皇室の御安泰、国家の平安並びに御崇敬の
皆様のご清福をお祈り申し上げます。

旧年は日本国民の総氏神様の伊勢の神
宮様には内宮外宮の両御正宮の遷御の儀
が厳かに斎行されました。又神話の地、出
雲の大社にても遷座祭が執り行なわれ、多
くの国民の皆様のご参拝・関心を神社・神
道にお寄せ戴いた年であります。

さて当社では、国指定重要文化財の御社
殿が前回の創建当初の解体復元工事から
約四十年経ち損傷も目立ち始めましたので、
國、県、市のご指導のもとお屋根葺替え工
事などの修復に着手せねばなりません。

本年は山麓に県道東合川野伏間線の全
線開通が見込まれることから多くのご参
詣者をお迎えするようになると予想され
ます。つきましては参道や車道の整備、延
いては公衆施設の備えなどが必要になつて
まいります。このことを踏まえ、境内及び
山内の設備の見直しを計り、より御崇敬の
皆様が、快適なご参拝をしていただける
「高良山」にしていきたく存じます。よろ
しくご支援のほどお願い申し上げます。

最後に崇敬者の皆様にとりましてこの
年がすばらしい幸多き年となりますよう
御祈念申し上げ年頭のご挨拶と致します。

たまたれ



江戸時代に始まつた高良山の伝統神事玉替祭は、本年成人の日に斎行され、その年の運を占う「宝珠みくじ」がこの日に限り授与されます。

午前九時の祭典後、宝珠みくじの授与が開始され、篤志協賛の当たりくじとともに、社頭には新年の幸運を願う人々が行列をなし賑わいます。

お正月に本社を始め、摂末社に

お供えした鏡餅を下げる開く鏡

開祭は、厄除け、延命の祭りとし

て古くから行

われてきました。

この日、御社

殿での祭典終了後、鏡割が

行われ、境内では温かい善哉が参拝者に

ふるまわれ、境内で大きいに賑わいをみせます。

鏡開祭

一月二十一日

玉替祭

一月十三日



祭事のご案内 二月・二月

子の日の松神事 二月九日

鎌倉時代初期に起源をもつと云われる子の日の松神事は、毎年正月初子の日に行われています。

明治二年以降途絶えていたこのお祭りは、上津四地区（上津、本山、千束、二軒茶屋）の方々の奉仕とご協力により平成十二年に再興され、以来毎年児童と世話役の方々が装束を着けて上津地区から松



祈年祭 二月十七日

平成二十六年厄年一覧(年齢は数え年です)

生まれ年 男性

生まれ年 女性

昭和二十八年 62才 厄明

昭和二十九年 61才 厄祓

昭和三十年 60才 厄入

昭和四十年 49才 厄明

昭和四十七年 43才 厄明

昭和四十八年 42才 厄祓

昭和四十九年 41才 厄入

昭和六十四年 26才 厄明

平成元年 25才 厄祓

平成二年 24才 厄入

昭和五十二年 38才 厄明

昭和五十三年 37才 厄祓

昭和五十四年 36才 厄入

昭和五十五年 34才 厄明

昭和五十六年 33才 厄祓

昭和五十七年 32才 厄入

昭和五十八年 31才 厄明

平成七年 20才 厄明

平成八年 19才 厄祓

平成九年 18才 厄入

商売繁盛

還暦算賀

諸障退散

傷病平癒

安産子育

七五三詣

受験合格

学業成就

子宝恵授

初宮詣

身体健康

厄年祓

苗を高良大社

まで運び、祭

典の後、社殿

裏山に植樹し

ます。この神

事はかつて高

良の神様が、

高良山に御鎮

座される際に

松をお植えに

なったという

故事伝承に由

来しています。

〔祈願種目〕

高良の大神様は古くより厄除・延命長寿の靈験あらたかとされおり、生活万般を御守護下される神様と広く信仰されております。

厄除等の御祈願をお受け戴き、此の一年が皆様にとりまして幸多き歳となりますようご案内申し上げます。

又お正月に限らず、月初め・年度初め、年間を通してお受け致しております。

祈願祭のご案内

一年の計は元旦にあり

歳の始めに家内安全・事業繁榮・

厄除等の御祈願をお受け戴き、此の一年が皆様にとりまして幸多き歳となりますようご案内申し上げます。

謹賀新年

高良大社

代表役員

竹間

宮司

飯籠

同

川村

同

赤司

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

※厄年に限らず、厄除祈願もいたしております。

秋の祭事のご報告



高良大社総代会再編

昨平成二十五年八月三十一日付にて、高良大社神社規則第十四条に基づき、二十二名の総代をご委嘱申し上げました。

先づ、就任を大神様にご奉告申し上げ、お一人お一人に委嘱状を呈しました。早速、平成二十五年

度第一回高良大社総代会を開催し、

社頭・社務諸事案を報告し、質疑応答を経て、全事案が了承され閉会となりました。続いて高良大社責任役員・監査役・顧問・相談役との合同会合を行い、お顔合わせを戴き、其々に神社奉仕への誓いを新たに結び、懇親を深めました。

今後とも、祭典行事を始め高良大社の諸事業へのご協力を御願い申し上げます。

たまたれ

高良山くんち

十月九日(水)

■神生祭 午前零時
高良の大神様のご神威を新に戴くお祭です。

■例大祭 午前十時半

一年で一番大きな高良山の祭典久留米喜多流奉贊会の謡曲、高良山十景舞保存会の舞が奉納されました。

十月十日(木)

■崇敬会大祭 午前十時半
会員の皆様が日頃の御神恩に感謝し、さらなる大神様の御神護を祈請しました。

表千家不白流の献茶式が奉納され、境内では野点接待がありました。

十月十一日(金)

■観月祭 午後六時
祭典後、爽秋の夜に月を賞で、久留米喜多流奉贊会の仕舞、生田流正派中村雅樂美師の箏曲、筑前琵琶保存会の琵琶、錦城流加藤城歎師の吟詠、鄧昱勝氏の二胡、立正伎成会久遠太鼓、日吉ぎんなん社中久留米にわか、柳川日吉太鼓、高良大社雅楽同好会雅楽、表千家北村宗孝社中お茶席の趣を楽しみました。

末社・兼務社の祭事

十月十三日(日)

第十五回さつき盆栽秋季展

十月十四日(月)

第十四回嵯峨御流諸岡社中生花展

十月十日(木)

日向ひよっこ踊りときめき会

十月十三日(日)

神影流心氣道古武道棒術演武

高良山同志会獅子舞

御井町風流保存会風流

新極真会久留米道場空手演武

十月十四日(月)

第四十三回高良山弓道大会

百々手式 久留米弓道連盟

小笠原流弓馬術礼法同門会

十月十八日(水)

大学稻荷神社稻荷教秋季大祭

十月二十日(日)

山川招魂社秋季大祭

その他神賑行事

九月二十三日(月)

第十三回高良山剣道大会

九月二十七(金)～二十九日(日)

第十四回さつき盆栽秋季展

十月九日(水)～十一日(金)

第十四回嵯峨御流諸岡社中生花展

十月六日(日)

御井鼓舞、大川民謡

筑水高校和太鼓

十月十日(木)

日向ひよっこ踊りときめき会

十月十三日(日)

神影流心氣道古武道棒術演武

高良山同志会獅子舞

御井町風流保存会風流

新極真会久留米道場空手演武

十月十四日(月)

第四十三回高良山弓道大会

百々手式 久留米弓道連盟

小笠原流弓馬術礼法同門会

十月十八日(水)

大学稻荷神社稻荷教秋季大祭

十月二十日(日)

山川招魂社秋季大祭



総代会

本	原	十	原	口	中	大	雅
村	口	細	猪	猪	渡	彦	彦
康	山	山	尾	芳	渡	幸	幸
人	高	高	芳	樹	宏	彦	彦
	龍	尾	樹	典	司	渡	渡
	頭	芳	宏	浩	浩	幸	幸
	喜	芳	典	司	司	彦	彦
	多	樹	正	正	昭	彦	彦
	村	昭	昭	昭	昭	彦	彦
佐	藤	清	一	郎			
菊	池	一	郎				
丸	田	一	郎				
稻	員	一	郎				
佐	藤	一	郎				
原	池	一	郎				
口	田	一	郎				
中	崎	一	郎				
大	江	一	郎				
雅	崎	一	郎				
人	江	一	郎				

高良大社総代会

たまたれ
味噌
野菜
果物
若波
天吹
鮮魚
池龜
萬年龜
杜氏の詩
繁樹
花の露
比翼鶴
國の寿
池龜
花の露
比翼鶴
國の寿
池龜
萬年龜
杜氏の詩
繁樹
株式会社花の露
株式会社杜の蔵
萬年龜酒造株式会社
池亀酒造株式会社
株式会社花の露
比翼鶴酒造株式会社
目野酒造株式会社
若波酒造合名会社
天吹酒造合資会社
久留米青果市場
大石みそ本店

たまたれ

◆ 献酒献樽・献饌者芳名
新玉の年の初めに御神前への
真心からなるご奉納を戴きました。

◆ 献酒献樽・献饌者芳名

ご崇敬各位より参道本坂両側
に掲げる灯籠をご奉納戴きました。
アサヒコーヒー・ショーン
大石みそ本店
福岡酸素株式会社
西井塗料産業株式会社
大電株式会社
エサキ自動車
ニシケン
喜多村石油株式会社
株式会社山口酒造場
合名会社山口酒造場
山の壽酒造株式会社
三井の寿
飛龍
若の壽
紅乙女
磯乃澤
喜多屋
喜多屋
繁樹
庭の鶯
山の壽
千年乃松
庭の鶯
山の壽
瑞穂錦
鷹正宗
千年乃松
飛龍
若の壽
紅乙女
磯乃澤
喜多屋
飛龍
若の壽
紅乙女
磯乃澤
喜多屋
繁樹
杜氏の詩
花の露
比翼鶴
國の寿
池龜
花の露
比翼鶴
國の寿
池龜
萬年龜
杜氏の詩
繁樹
株式会社高橋商店
株式会社杜の蔵
萬年龜酒造株式会社
池亀酒造株式会社
株式会社花の露
比翼鶴酒造株式会社
目野酒造株式会社
若波酒造合名会社
天吹酒造合資会社
久留米青果市場
大石みそ本店

献酒献樽・献饌・献灯者芳名

(敬称略・順不同)



◆ 献灯者芳名

古賀塗装店
株式会社近藤建設
ミスター・ジヨージ
石井ガス機器
森山整形外科院
立山自動車工業
杉村設備
立山自動車工業
藤山自動車
宮原運輸
坂田ガス住設
夕悠
大和クレーン
小坂自動車
SUN&MOON
木匠 中村建設
西日本企画サービス
サクラみそ食品株式会社
衛專株式会社
木匠 中村建設
津福工業
丸永製菓株式会社
とまと運送
森光 健
有限会社筑陽電設
大洋工務店
大牟田自然を守る会
権藤写真館
きりえ作家 稲田孝之
株式会社十八防災システム
最所産業
日吉プリント
株式会社筑水管材
角消防設備株式会社
青柳自動車
株式会社みのう
太陽住設

種商 石丸カバン店
田島運送
株式会社大久保建設
重枝 康生
自立サポートみい合同会社みい工房
株式会社中島田鉄工所
大至産業有限会社
株式会社キヨードー仮設
渡辺プロパンガス
秋吉内科
井手運送
西日本企画サービス
サクラみそ食品株式会社
衛專株式会社
木匠 中村建設
西日本シティ銀行
九州防水株式会社
りくだい株式会社
中川建材株式会社
えがみ塗装
木のぬくもり館
大牟田郵便局
赤坂食料品店
御井町郵便局
島機械センタ
姫野酒店
姫野パークインビル
香和印刷
やなぎ亭
姫野パークインビル
キンドウ
有限会社マイスター
有限会社末崎計量器
天勝
吉金菓子舗
SIC
木下樂器店
デュオ
久留米紙器工業株式会社
宗右衛門寿司
株式会社松本商店
株式会社MS1

新年のごあいさつ



高良大社崇敬会

会長 井手 和英

明けましておめでとうございます。
会員の皆様には明るい希望に満ち
た新しい年をお迎えのこととお慶
び申し上げます。

お陰さまで、当崇敬会も早や創
立七年目を迎え、会の運営も軌道
に乗り順調に推移いたしております。
これは偏に役員をはじめ会員の皆
様の温かいご支援とご協力の賜物
と心より感謝申し上げます。

昨年は日銀の超金融緩和政策や
アベノミクスに対する期待感から
円安・株高が進み、景気回復への
明るい兆が出てまいりました。更
には、東京オリンピックの開催が
決定した事もあり、長年に亘り日
本社会を覆つっていた閉塞感から解
放され、久々に明るい年末となり
ました。また、昨年は、伊勢神宮
の二十年に一度の式年遷宮と出雲
大社の六十年に一度の御遷宮に巡
り合うことが出来た大変有り難い
年でもありました。

本年はこの昨年からの明るいム
ードを引き継ぎ、日本経済がデフレ
から脱却し、明るい元気な社会に
なることを皆で祈願いたしましょう。

昨平成二十五年度当会が実施い
たしました主な行事、事業は次の
とおりであります。

本平成二十六年度につきまして
は次のような行事・事業を計画い
たしております。

● 会員総会・記念講演会
(開催予定日三月四日、宮崎県
高千穂神社の後藤俊彦宮司の
講演会を予定)

● 第四回企画研修旅行
(二月十八日～十九日、一泊二
日で伊勢神宮正式参拝)

● 崇敬会大祭(十月十日斎行)
(五月八日開催、講師 久留米
大学名誉教授猪口哲夫氏、テー
マ 明治維新における「廢仏毀釈」
をめぐって)

● 第三回企画研修旅行
(五月八日開催、長門国一の宮
住吉神社正式参拝)

● 高良山書道展・写真展への協賛
新規事業として、昨年度作成し
た高良山マップにある名所旧跡
の山内案内表示板の設置ならび
に社殿正面の石段両側の献灯の
整備、久留米つづじ原本群の手
入れなどを予定し、総会にお諮
りすることといたしております。

本年も各種行事への積極的なご
参加をお願い申し上げますとともに
に皆様のこの一年間のご健勝とご
活躍を祈念申し上げます。

監査役 同同

岡山渡森宮二古北金鐘岩彌牛福黒北中林稻渡御野酒津辻菊堤石井高松橋倉井手
野下辺光崎宮賀島子江崎永島田岩原田 田邊船田田福川 丸手本本本田手
秀規徹佐靖啓重正泰 守 フミ子弘郎史峰江世範 由紀子敦清一郎朗子久見子修
雄夫也郎幸克年晴大



高良大社崇敬会だより

平成二十五年度の活動報告と本年度の計画について

高良大社崇敬会の平成二十五年度の活動報告と
二十六年度の活動計画の概要を報告致します。

【平成二十五年度活動報告】

- ①祭事看板の作製
年間恒例祭典の案内看板を作製、
境内、山麓に設置致します。



- ②高良山マップの作成
高良大社参拝、高良山散策の皆様に種々な登山ルートと山内の見どころを判り易く解説した案内マップを作成しました。
一昨年夏の豪雨のため二十五



高良山マップ作成

- 年度に継続事業として延期し無事に施工完了しました。
④崇敬会大祭の斎行(おくんち)
十月十日(木)会員多数の参列のもと厳粛に斎行されました
・表千家不白流の献茶式・野点
・嵯峨御流諸岡社中の生花展
・ひよっこ踊り(ときめき会)
⑤書道展・写真展への協賛
⑥第三回研修旅行(住吉神社)
⑦講演会の開催(総会時に開催)

- 【平成二十六年度活動計画案】
①伊勢参宮旅行の実施(第四回)
(定員になり〆切りました)
②その他事業計画を来春の総会にて審議の上、実施致します。



崇敬会大祭当日の表千家不白流野点席

佳	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
高橋川最	川津増	岡大	牧安	免新	加藤田九	聖洲	吉丸	馬場加代	伊藤古	飯田剛	古川正	伊藤正則	堀美子
重敦	弘信	健正	茂敏	隆弘	隆子	幸聖	健正	代忠	藤吉	久和	則忠	和人	典子
所	口	野	徳	子	勝好	二	勝	忠	村	正	行	京子	重孝

佳	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
高橋川最	川津増	岡大	牧安	免新	加藤田九	聖洲	吉丸	馬場加代	伊藤古	飯田剛	古川正	伊藤正則	堀美子	宮原典子
重敦	弘信	健正	茂敏	隆弘	隆子	幸聖	健正	代忠	藤吉	久和	則忠	和人	重孝	
所	口	野	徳	子	勝好	二	勝	忠	村	正	行	京子	京子	

佳	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
高橋川最	川津増	岡大	牧安	免新	加藤田九	聖洲	吉丸	馬場加代	伊藤古	飯田剛	古川正	伊藤正則	堀美子	宮原典子
重敦	弘信	健正	茂敏	隆弘	隆子	幸聖	健正	代忠	藤吉	久和	則忠	和人	重孝	
所	口	野	徳	子	勝好	二	勝	忠	村	正	行	京子	京子	

佳	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
高橋川最	川津増	岡大	牧安	免新	加藤田九	聖洲	吉丸	馬場加代	伊藤古	飯田剛	古川正	伊藤正則	堀美子	宮原典子
重敦	弘信	健正	茂敏	隆弘	隆子	幸聖	健正	代忠	藤吉	久和	則忠	和人	重孝	
所	口	野	徳	子	勝好	二	勝	忠	村	正	行	京子	京子	

佳	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
高橋川最	川津増	岡大	牧安	免新	加藤田九	聖洲	吉丸	馬場加代	伊藤古	飯田剛	古川正	伊藤正則	堀美子	宮原典子
重敦	弘信	健正	茂敏	隆弘	隆子	幸聖	健正	代忠	藤吉	久和	則忠	和人	重孝	
所	口	野	徳	子	勝好	二	勝	忠	村	正	行	京子	京子	

佳	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
高橋川最	川津増	岡大	牧安	免新	加藤田九	聖洲	吉丸	馬場加代	伊藤古	飯田剛	古川正	伊藤正則	堀美子	宮原典子
重敦	弘信	健正	茂敏	隆弘	隆子	幸聖	健正	代忠	藤吉	久和	則忠	和人	重孝	
所	口	野	徳	子	勝好	二	勝	忠	村	正	行	京子	京子	

第一回 高良山写真展

優秀作品に表彰状および記念品を贈呈しました。

高良大社宮司賞 磯野良一
高良大社崇敬会会長賞 福本勲
福岡県知事賞 酒井忠正
久留米市議会議長賞 古賀スマ力
久留米市長賞 池田勝久
西日本新聞社賞 須賀由貴子
審査委員長賞 中村忠義

高良大社賞 松熊正隆
高良大社賞 日野浩昭
高良大社賞 野口豊
高良大社賞 建崎忠昭
高良大社賞 古賀恵美子
高良大社賞 吉海淨
高良大社賞 田中みゆき
高良大社賞 甲斐基博
高良大社賞 長岡輝久
高良大社賞 野中建峙
高良大社賞 宇木淨
高良大社賞 久生輝
高良大社賞 今鶴基博
高良大社賞 宮崎建峙
高良大社賞 伊藤輝
高良大社賞 堀美子
高良大社賞 宮原典子
高良大社賞 重孝典子

たまたれ



高良山通信

(敬称略・順不同)

功労者表彰

高良大社へのご功績に感謝申し上げ、十一月二十三日の新嘗祭の佳日に顕彰申し上げました。

永年に亘り高良山内及び山麓御手洗池などを清掃奉仕された

高良山の緑と史跡を守る会
会長 金子 賢二

永年に亘り高良山内を清掃し、あじさい祭・紅葉狩り等の行事を開催された

高良山の森と環境を守る会
会長 石井 秀夫

昨年斎行の御神幸祭に神輿台車を修繕し祭典に物心共々の御奉納された

株式会社エサキ自動車
江崎 正昭

御本殿に御神鏡を四面奉納された

株式会社テイク
古賀 富彦

職員表彰

〔勤続十年表彰〕

録事 本多 晴美

奉仕団体

いつもきれいにしていただきありがとうございます。

トイレ清掃奉仕

トイレ綺麗隊の皆様

- サレーヌの皆様
- 参道清掃・鳥居・由緒板の水洗い
- 自立サポートみい合同会社
- みい工房ピピの皆様

奉納

竹杖(手作り)百本

久留米市 安徳 勝司

二の鳥居に常備し、徒步登拝の皆様にご自由にお使いいただきます。

国宝大神社展のご案内

平成二十六年一月十五日～三月九日
九州国立博物館にて開催

全国の神社の所蔵する至宝の数々が展示されます。国宝二十一件、重要文化財四十七件、是非この機会に拝観し、神々の気配と息吹をお感じ下さい。

訃報

②旧宮司邸入口部の工事



①天然記念物「孟宗金明竹」林の上部の工事

平成二十五年十一月十八日に終了致しました。

平成二十六年一月十五日～三月九日
九州国立博物館にて開催

雨により土砂崩れが発生し、国庫補助事業「史跡高良山神籠石災害復旧工事」を、二ヶ年度に亘り実施しました。二十四年度は、土砂撤去・参道開通工事を実施し、二十五年度は時季を選び、法面自体の土留めをし、種子吹付により緑を回復する計画工事を実施しました。

境内災害復旧工事実施

- 午歳を迎えました。高良山に伝わる馬に関する話として、参道には神様がお乗りになつた神馬の足跡と云われる馬蹄石があります。昔はこの石を神籠石と称し、蹄跡のへこんだ部分に自分の足を重ねると健脚になると言われています。御登山の折にはどうぞ実践されて見て下さい。

鎮守の杜

- 山内末社の愛宕神社は鎮火の神としても有名ですが、牛馬の守り神として有名ですが、牛馬の守り神としても厚い信仰がありました。昔は馬を引き連れお参りされたそうです。境内の石造りの神馬像の柵には馬を扱う方の名前を多く見ることができます。

- 終の葉は年を重ねる毎に丸くなる。馬齢を重ねて体型ばかり丸くなりすぎた自分がいる。心を丸く、馬の耳に念佛とならぬよう人の話しをよく聞き諸事円満に、神馬が駆けるが如く飛躍の年となるよう精進を重ねるべく勤めます。

(長)

「たまたれ」 通巻二十七号
平成二十六年一月一日発行

発行者／高良大社社務所

福岡県久留米市御井町一一番地
電話〇九四二一四三一四八九三
FAX〇九四二一四三一四九三六